

事業完了報告書（守口市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年6月2日 ～ 令和6年3月15日
調査研究事項	《委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究》 Ⅱ. 広報・相談体制の充実に関すること 研究テーマ：「広報・相談体制の充実」
調査研究のねらい	<p>令和2年国勢調査の結果、さつき学園に夜間学級を開設している本市および周辺各市において、多数の義務教育未修了者（未就学および最終卒業学校が小学校の者、以下同じ）の存在が明らかになっていることを踏まえ、潜在的に夜間中学を必要としている人たちに対して積極的かつ広範に情報を届け、夜間中学での学びの実現（教育機会の確保）に結びつけること、また、入学を希望してさつき学園夜間学級（以下、本市夜間学級）にたどり着いた人々の背景や願いなどを十分に受け止め、有意義な学校生活につながることをねらいとし、以下の観点に基づいた広報・相談体制の充実に関する取組み（調査研究）を行う。</p> <p>ア. さつき学園は国内で唯一夜間学級を設置している公立義務教育学校であり、夜間中学での学びを必要とする広範な地域の人々に対し、旧第三中学校での開設以来50年にわたって、義務教育を受ける機会を確保するための重要な存在となってきた。令和4年度在籍生徒の居住市は、守口市を中心に大阪市、門真市、寝屋川市、枚方市、交野市、大東市、高槻市、吹田市、摂津市、茨木市など、広範囲に及んでいることがその証左といえる。一方、令和2年度の国勢調査で明らかになった義務教育未修了者数は、上記地域に限っても2万人を超えており、夜間中学に対する潜在的ニーズは極めて多いと容易に推測される。同時に、公立夜間中学の存在がそれを必要とする人々、およびその周囲にある社会全般に十分に認知されているとはいえず、義務教育を受ける機会を求める全ての人々に情報が十分に届かない状況が、未だに存在しているといえる。</p> <p>そのような状況の克服、すなわち、長期的な潜在的ニーズの掘り起こし、本市夜間学級を含む夜間中学にたどり着く人々の増加に向けた効果的な広報媒体の作成、活用の方法等について、これ</p>

まで培ってきた取組み（オリジナルリーフレットやフライヤー等の作成、周辺各市教育委員会との連携、年に数回実施している生徒募集活動等）の成果を発展的に継承したうえ、多角的な視点に基づくより一層の工夫を検討、研究し実践する。

イ. 10代から80代までの多様な年齢・国籍の生徒が在籍するという生徒実態に応じた教材等の作成や、学習指導等に関する研修等を通じて、教科や日本語指導を中心とする様々な教育活動の充実に向けた工夫・研究、加えて生徒実態を踏まえたICT機器及び一人一台端末の効果的な活用についても研究しながら教育活動を進めてきた本市夜間学級では、生徒一人ひとりの1年間における学習の集大成として、開設以来50年間にわたって毎年度の学年末に文集『まなび』を作成・配布し、夜間中学の存在を発信してきた。

この文集『まなび』は、作成した翌年度に本市各校をはじめ、交流（イ.参照）に訪れる学校関係者や連携する周辺各市教育委員会等に配布することで、本市夜間学級で学ぶ人々の学びの姿や心の声を伝え広める役割、すなわち、広報媒体として大きな力を発揮していることが、これまでの取組みの中で明らかになっている。そのことを踏まえ、夜間中学の存在とそこで学ぶ人々の姿を発信する役割を果たしてきた文集『まなび』について、潜在的ニーズの掘り起こしにも資する重要な広報媒体の一つとしての位置づけのもと、その継続的・発展的な作成と活用に向けて、内容構成や編集上の工夫、有効な配布の方法、配布先等を検討・研究し、年度末に発行する。

ウ. 本市夜間学級における交流活動は、義務教育学校であるさつき学園前期・後期の児童生徒及び教職員をはじめ、本市内外の小学校・中学校・高校・大学、さらに教職員研究団体や初任者等の研修など、毎年多数の学校・団体等のそれぞれの目的による交流の申し出のもと、それに応じる形で長年にわたり実施されており、交流後には極めて意義深かったとの感想等が参加者から数多く寄せられている（令和4年度では31の学校・団体等から、児童・生徒・学生・教職員等400人超の人々が来校、交流した）。

一方、本学級にとっても、ともに学ぶことを通じて他者とのコミュニケーションや、生徒の発言・発表（外国人生徒の場合は日

本語での発表)、作文等への学習意欲を引き出す等、生徒の学習活動において極めて重要な意義を有している。

同時に、上述のような意義のある本市夜間学級の交流活動は、教材や資料などを工夫・準備して進める授業や、夜間中学に関するワークショップへの参加を通じて、市内や近隣地域の小学校・中学校等の児童生徒、および教職員・保護者等に対する夜間中学への理解や認識の深まりを促し、さらに交流参加者の周囲に位置する人々にも夜間中学に関する認識を広めることにつながっていることが、これまでの取組みからも明らかになっている。すなわち、本学級の特色である交流活動そのものが、多数の人々に対して夜間中学に関する情報発信及び広報の役割を担う重要な機会であり、潜在的ニーズの掘り起こしにつながる活動となっていることから、その活動の一層の充実について検討・研究したうえ、より意義ある教育活動として継続的に実践し、夜間中学の存在を地域社会に発信していく。

エ. 本市夜間学級には、従来から主として日本、中国・台湾、韓国・朝鮮国籍の生徒が在籍してきた。夜間中学の存在が注目される中、学齢期に義務教育を受ける機会を十分に確保されないまま、様々な生い立ちのもと人生を歩んできた高齢者等の入学者も従来から継続的に存在し、文字の読み書きの習得を切実な課題として日々の学習に臨んでいる。一方、近年においては中国やフィリピン、ベトナムなどの東アジア・東南アジア地域に加え、ネパール、パキスタン、インドなど、多様な国・地域からの若年入学者も継続的に増加してきている。入学したこれらの外国人の誰もが、渡日に至るまでのそれぞれの生い立ちや、渡日後の複雑な生活事情を背景に有しつつ、日本での社会生活の前提となる日本語について「読めない」「話せない」「書けない」など、多様で切実な課題を有していることから、日本で生きるための学びを求めて本市夜間学級にたどりついている。

そのような状況にある外国人の学びへのニーズに応え、本市夜間中学での充実した学びにつなげるには、母国における学習や生活の状況、渡日の経緯や日本での生活状況、今後の人生における希望など、学習・生活・進路等の諸課題について、丁寧なコミュニケーションのもと、できる限り正確に把握する必要がある。同時に、学びの充実には日本の学校制度や夜間中学の仕組み等につ

	<p>いても、十分に理解してもらうことが重要といえる。さらに、「体験入学時」から入学後における生活や学習上の課題や悩みなどについても、継続的で丁寧なケアが、安定した社会生活を基盤とした持続可能な学校生活とその充実には必要である。</p> <p>すなわち、外国人入学希望者および入学生徒との母語による丁寧かつ継続的なコミュニケーションが、本市夜間学級にたどり着いた人々の有意義な学校生活、及びその基盤となる日本での社会生活の安定にとって必要不可欠であることから、外国人入学希望者や入学者に対する通訳者を活用した効果的な相談体制の構築、およびその充実について検討・研究し、実践する。</p>
<p>調査研究の成果</p>	<p>【 調査研究ねらい ア について 】</p> <p>公立夜間中学の存在がそれを必要とする数多くの人々、およびその周囲にいる人たちや社会全般に十分に認知されているとはいえず、義務教育を受ける機会を求めずべての人々に情報が十分に届いていない状況が未だに存在しているなか、潜在的ニーズの掘り起こし、夜間中学にたどり着く人々の増加に向け、次のような研究・実践をおこなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度新たに組織した「広報委員会」を5月から8月にかけて月に1、2回程度開催し、これまでの研究成果として貴重な財産となっている広報媒体（ポスター、フライヤー、リーフレット、カード）について、より効果的な内容に向けた検討・研究と作成をおこなうと同時に、それらを通じた夜間中学の存在や活動の様子をより広く周知するためのより効果的な方法、実践の方策について検討・研究した。 ・また9月から3月にかけて、「広報委員会」を中心に作成した広報媒体、および企画した方策にもとづき、潜在的ニーズの掘り起こしに向けた取り組みを、その途上における成果や課題について随時再検討しながら進めた。 <p>その結果として、次のような成果・企画を実現した。</p> <p>i) この間、別々のものとして存在していたポスター・フライヤー・リーフレット（学校案内）・カードと学校ホームページを、QRコードによりリンクさせ、広報媒体の有機的なつながりのもと、情報のより広範囲に及ぶ周知と具体化を図ることができた。</p> <p>。</p>

- ii) 同時にホームページの内容についても「広報委員会」で再検討、企画することとし、その内容をリニューアル、充実させることで、夜間中学を必要とする人たちに、本学級における学校生活の様子をより一層具体的に伝えられるようになった。
- iii) 校区や市内の人たちに夜間中学の存在をより広く周知するため、市広報誌や学校運営協議会を通じた情報発信についても「広報委員会」で担当、企画することとし、入学案内や夜間中学の紹介について、その内容の充実、より広範囲への情報発信を実現することができた。その際、これまで作成してきた広報媒体の内容も有効に活用した。
- iv) 生徒会活動とも連動させた学校独自の年に3回から4回の「生徒募集活動」を通じて、作成した広報媒体をポスティングやコミュニティーセンターへの配置依頼をおこなうことにより、市内外で継続的に配布・配置することができた。また、周辺各市教育委員会との連携についても、これまでの関係性を継続させながらリーフレットやフライヤーなどの配布数の増加、配置場所の工夫等を、直接訪問して依頼することにより、取り組みの強化・発展、夜間中学の重要性に対する認識の深化を図ることができた。
- v) 「広報委員会」と後述の「文集委員会」および交流活動の連携（それによる企画）をより意識的におこなうことで、取り組み途上における広報活動の工夫、一層の広がりを実現することができた（具体的には後述）。
- ・夜間中学に対する潜在的ニーズが極めて多く、夜間中学での学びを必要とする人々に対し、未だ十分に情報が届いていない現状が依然残されていると予測されることから、上記の研究と実践および成果については、中長期的な視野からの息の長い継続的な実施、および工夫や改善による深化・発展が必要不可欠と思われる。また、その一環として、これまでの研究と実践で確認できた情報の広がりによって一定の時間を要するという性質を補うべく、個人情報の拡散など情報の取扱いに留意しながら、現代社会の実情を踏まえたSNSを積極的に活用した広報活動のあり方についても研究していく必要があると思われる。

【調査研究ねらい イ について】

生徒一人ひとりの1年間における学びの集大成であるのみならず、夜間中学の存在とそこで学ぶ人々の姿を発信する役割を果たしてきた文集『まなび』（以下、『まなび』）について、潜在的ニーズの掘り起こしにも資する重要な広報媒体の一つとしての積極的位置づけのもと、その継続的・発展的作成と活用に向けて、次のような研究・実践をおこなった。

- ・ 5月から8月に月に1、2回程度「文集委員会」を開催し、潜在的ニーズの掘り起こしに資する構成や編集上の工夫、有効な配布の方法、配布先等の観点から『まなび』について検討・研究し、その方針を定める。
- ・ 9月から3月にかけて「文集委員会」で定めた方針に基づきつつ、生徒一人ひとりの年間の学びのまとめを含む原稿等の準備、作成作業を随時進めることで、『まなび』を完成させる。

その結果として、次のような成果を得た。

- i) 本学級は今年度で開設50周年を迎えたことから、『まなび』（第51号）をその記念号とすることで、さまざまな境遇と思いをもったより多くの生徒の姿を読者に伝えると同時に、現在の学校生活の様子なども具体的に発信するという方針のもと、構成・編集上の工夫をおこなったうえ作成作業をすすめ、計画どおり年度末に発行を実現した。
- ii) 『まなび』（第51号）を完成させることで、年度末から次年度当初以降に、夜間中学の存在と活動の様子、そこで学ぶ人々の姿を広く内外に発信するための有意義な素材を用意することができた。
- iii) 「広報委員会」における取り組み方針と連動し、交流活動の下見や打ち合わせ、あるいは参観などに来る学校関係者や行政関係者、研究者などに対して、可能なかぎり『まなび』（昨年3月発行の第50号）を配布することで、より幅広い人たちに対して、それぞれの立場での活用を通じた夜間中学の存在の周知、および理解の深まりに結びつく素材の広範囲に及ぶ提供を図ることができた。この点については、周辺各市教育委員会との連携による広報の充実においても同様である。

- ・ 十分に義務教育を受ける機会が得られなかった人たちの周囲に

いる人々や社会に対する夜間中学への理解の広がりや深まり、それを基礎とした夜間中学を必要とする人たちのニーズの掘り起こしには、そこで学んでいる生徒の具体的な姿や境遇の周知が、最も重要なことの一つといえる。その意味において、本市夜間学級における学びを中心とした生徒の姿が表現されている『まなび』の広報媒体としての役割は、今後もその意義を失うことがないことから、その取り組みと充実・発展の工夫を、継続的に進めていく必要がある。

【調査研究ねらい ウ について】

本学級の特色である交流活動の取り組みは、多数の人々に対して夜間中学に関する情報発信・広報の役割を担う重要な機会であり、潜在的ニーズの掘り起こしにつながる活動となっていることが、交流に訪れた多数の学校・団体等の交流後における感想等から明らかになっている

そのことから、夜間中学の存在を地域社会に発信していく交流活動の実施と一層の充実について、次のような研究・実践をおこなった。

- ・ 交流の申し入れを踏まえ、日程調整およびその目的を応じた交流活動（授業参加やワークショップ等）の持ち方について校内交流担当を中心に検討し、より意義ある交流の在り方を研究・実施した。
- ・ 来校する多数の人々に対する直接、間接の夜間中学に関する効果的な情報発信・広報機会となる資料、教材等についての検討、研究を重ねたうえで作成し、具体的な交流実践を進める。

その結果として、次のような成果を得た

- i) 5月から3月まで間、さつき学園の前期・後期の児童・生徒をはじめ、市内外の小学校、中学校、高校、大学および教職員研究団体（延べ31団体、約650人）との交流活動を実施することができた。
- ii) 交流する相手方と事前の打ち合わせを十分におこなうことにより（必要に応じた事前参観を含む）、交流の目的・学年・人数などについて十分に把握したうえで、把握内容に応じたワークショップや授業参加を企画し、意義ある交流（交流後の感想な

どによる)を実施することができた。

iii) ワークショップにおいて、さまざまな境遇にある10人前後の生徒が、自らの生い立ちや思いを綴った作文を読む(聞く)活動を組み込むことで、交流相手(引率者等含む)の夜間中学への理解を一層深めることが可能となった。

iv) 「広報委員会」との連携のもと、作成したリーフレットを来校者すべてに配布、さらに意義ある交流活動を基礎に関係性を深めた交流相手側の協力を得て、それぞれの地域でのフライヤー等の配布・掲示など、交流後における情報発信に向けた発展的な取り組みを具体化し、推進・実施できた。

・ 『まなび』同様に、学んでいる生徒の具体的な姿や境遇と直接触れ合う交流活動は、十分に義務教育を受ける機会を得られなかった人たちの存在や夜間中学の様子を広く周知する広報機能を有していることは、来訪者の様子やその後の感想、取り組みなどから十二分にうかがうことができる。本市夜間学級で学ぶ生徒への教育的意義はもちろんのこと、小・中・高校生、大学生や経験の浅い教職員など、これから社会を形成していく人たちの交流は、地域的な広がりのみならず、広報機能の時間的な広がりについても期待されることから、継続的に取り組むべき活動である。

【調査研究ねらい エ について】

近年の日本社会の状況を反映し、多様な国・地域からの入学希望者・入学者(以下、入学者等)が継続的に増加しているなか、学びを求める外国人のニーズに応え、当該の人々の夜間中学における持続可能で充実した学校生活につなげるには、これまでの教育実践での経験知から、一人ひとりの入学者等について次の点が重要であることが明らかとなっている。①母国での学習や生活の状況、渡日の経緯や現在の生活実態、今後の人生における希望など、学習・生活・進路等の課題についての可能な限り正確な把握。②日本の学校制度や夜間中学の仕組み等についての十分な理解。③「体験入学時」から入学後における生活や学習上の課題や悩みなどに関する継続的で丁寧なケア。

上記を踏まえ、入学者等に対する通訳者を活用した効果的な相談体制の構築、およびその充実について次のような研究・実践を

おこない、一定の成果を得た。

- ・複数言語の通訳者を確保したうえ、令和5年6月から令和6年2月にかけて、通訳を交えた定期的または適時の「入学・学校生活等に関する相談会」を開催した（延べ回数22回）。

その結果として、次のような成果を得た。

- i) 入学を希望する外国人の過去・現在における学習や生活・進路等に関する経緯や状況、願い（ニーズ）などについて、より詳細に把握することができた。
- ii) 入学希望者に対して、入学・学びの前提となる日本の学校制度と夜間中学の仕組みについて丁寧に説明することにより、これまで以上に理解を得ることができた。
- iii) 前述の i) ii) を通じて入学に至った生徒については、その後の学び、およびその支援に関わる前提条件を整えることに結びついた。
- iv) 外国人生徒の入学後の学習や学校生活、進路、日常生活等に関する課題や悩みなどについて、よりきめ細かく把握し、それぞれに応じた支援をおこなうことが、より一層可能となった。
- v) 上記の諸点を踏まえた総合的な成果として、一人ひとりの外国人入学者等に対する通訳者を介した母語等でのコミュニケーションを通じた学校に関する丁寧な説明、学びや生活についての状況把握、継続的なケア・支援に結びつく相談体制の構築が、学びの前提となる夜間中学への理解、それを土台とした教育機会の確保、およびその後における持続可能な学校生活とその充実、さらにその基盤となる社会生活の安定に資することが、これまで以上に明らかとなった。

- ・相談体制の在り方に関する今回の研究で得た実践的な知見を今後の教育活動、研究に生かすことにより、さらに充実した相談体制づくりを探求し、夜間中学を必要とする人たちの教育機会の確保、学びの充実を継続的に図っていく必要がある。